

イチゴ四季成り品種 「エッチェス138」 (商標登録：夏実)

菓子メーカーが待ち望む夏場の
業務用生産に大きな弾み

難しい技術は要りません。
あなたも栽培チャレンジを。

「なぜ四季成りイチゴ」
ずばり、菓子メーカーが夏場の国産を望んでいる。一季成り果実の出荷は栽培の難しい夏季を避け、冬春どり11月～6月がほとんど。一方、イチゴをトップピングしたショートケーキなどは超ロングセラー、ケーキの王様であるが、国産が品薄となる夏場はやむなく輸入に頼っている。しかし、輸入品は鮮度や品質に問題があり、イチゴ製品を絞り込まざるをえないのが実情。菓子メーカーは人気商品を、メニューからみすみす外さなければならぬ。
これほど国産が期待される分野は無い。そこで菓子メーカーのラブコールに応えるように、四季成りイチゴ品種「エッチェス138」(商標登録・夏実)が誕生した。

・「エッチェス138」の特長と栽培ポイント

「交配経過」

ダイニエートラルタイプを母に、農水省野菜試験盛岡支場の四季成り品種「エバーベリー」を交配した。選抜を重ねて生まれたHS42を母に果実が硬く日持ち性に優れた盛岡16号を掛け合わせて生まれたのが、「エッチェス138」。

この品種については北海道の奨励品種として認められており、優良品種としてのお墨付きを得た。

エッチェス138の品種特性

1 交配経過

四季成り性 HS42×盛岡16号。

2 草姿

開張性、草勢はやや強で草丈はやや低い。

3 葉の形状

平面で鋸葉状の形は中間、小葉の大きさは中。

4 葉数

葉数、葉柄長はやや中で、葉柄の太さも中。

5 果実

果皮色は鮮紅で光沢があり、果肉色は淡紅、果心色は白。果実の大きさはやや大。

6 花

花の大きさはやや大。

7 堅さ

果実の堅さはやや中、そう果落ち込みは中。

8 果形

無種子帯およびネックは無く円錐形。
果柄は太く、もぎ取りは容易。

9 季性

四季成り性で花房数はやや多い。

「四季成りイチゴ適地」

イチゴは30℃をこえるような夏の暑さと乾燥を嫌う。一季成りの主産地の暖地は栽培に向かず、産地は高冷地などに限られる。北海道始め東北以北はすべて適地といえる。

四季成りイチゴは種や苗を植えさえすれば花がつき実がなります。一季成りイチゴを夏場に花を上げるには低温や短日環境を一定期間遭遇させないと花は出来ません。短日処理(8時間日長・16時間暗黒)を3～4週間、毎日処理しなければなりません。四季成りイチゴは面倒な技術は一切不要です。

「栽培施設」

灰色かび病などの蔓延を防ぐための雨よけさえあれば何でも構わない。米用など今使用しているハウスの活用で十分に収益性の手応えがある。ただ室温が高くなると障害が出るので風通しをよくする事が重要である。

「作型の選択」

ユーザーが最も必要とする夏場とそれ以降の収穫に照準を合わせ定植時期を選ぶことが重要。作型は秋植え、春植えの二タイプに大別される。

「栽培ステージ」

無病地の熟畑に定植したらまず健康で立派な腋芽(えきが)を作ること専念する。

20～25日で花芽分化が始まり、そこから花が咲き果実が色づくまでがほぼ50日。つまり定植してから収穫まで気候で異なるが70～80日要する。





エッチェス138の作

月	4			5			6			7			8			9			10			11		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
秋定植	● 定植																							
II型	前期収穫									中休み			後期収穫											
	◆ 花房摘除 55日 ◆ 花房放任 ◆ 新花房摘除 ◆ 花房放任 ~																							
春定植	● 定植																							
III型	前期収穫									中休み			後期収穫											
(中休み収穫)	◆ 花房摘除約 60日 ◆ 花房放任 ◆ 新花房摘除 ◆ 花房放任 ~																							
III型	● 定植																							
(連続収穫)	◆ 花房摘除約 60日 ◆ 花房3本 ◆ 新花房3本 ◆ 以降花房放任 ~																							
IV型	● 定植																							
	◆ 花房摘除約 55日 ◆ 花房3本 ◆ 花房放任 ~																							
V型	○ 仮植																							
	● 定植 ◆ 花房摘除約 5日 ◆ 花房5本 ◆ 花房放任 ~																							
VI型	○ 仮植																							
	● 定植 ◆ 花房摘除約 45日 ◆ 花房放任 ~																							
全期間腋芽の摘除はしない																								
< 全期間: 弱小腋芽、ランナー、弱小え花房、古葉は摘除する >																								

「病害虫の心配」
暑い時期の栽培なので細心の気配りが必要。病気では灰色かび病、うどんこ病が怖い。害虫ではアザミウマ類(スリップス類)やハダニ類がやっかいであるが、しっかりと換気と予防除を徹底すれば大事には至らない。

「収量性」
「エッチェス138」は多花房、多果数型品種で果実は大きくはないが沢山実を作ることによる多収性品種と位置付けできる。需要規格はMクラスを求めている。試験圃場だと10アル当り5トン以上、また実際においても4.5トン以上の好成绩を挙げている生産者もいる。まずは初作段階では3トンを目標に置いている。暑夏では小粒果、奇形果などで減少し、技術や土壌に大きく左右されるが何も難しいことでは有りません。栽培マニュアルに沿ってきめ細かく手をかけることで十分である。高収益も期待できる四季成りイチゴ「エッチェス138」にぜひチャレンジしてほしいと願っている。

「夏場の市場」
夏秋期のイチゴマーケットは予想以上に大きい。最近のイチゴ生産は20万トンで伸び悩み、しかも11〜6月までの7ヶ月に集中。残り5ヶ月は1万トンにも満たず、輸入は年間6千トンにすぎない。国産の周年供給態勢が整うと消費のバイは一気に拡大、5ヶ月で3万〜4万トンの市場を創出できる。以前トマト、きゅうりは夏野菜であったが、ハウスの出現で、一年中変わらぬ需要が生まれた。イチゴも同じ。何と云っても日本人はイチゴ好き、世界で一番イチゴを食べる国民なのである。

「栽培に当り押える点」

通常イチゴは花が咲いて1ヶ月程度で収穫出来るが、実を取るまでの管理が何より重要である。四季成りは一季成りと異なり花房が次々出てくる特性を持っている。定植時に充実した一芽を残し、他の弱小腋芽、花房を除去すること、発生してくるランナーを摘除することが第一のポイント。本体の株を充実しないまま実を成らすと株疲れをおこし、総体の収量が上がらない。
定植して40日以上は全花房、弱小腋芽、ランナー、古葉を摘除する。図にある通り、4月中旬定植のIII型はそこから40日後、他は35日後から収穫に入る。実をとる期間は約40日にとどめる。収穫期は実に栄養が取られるので、その後に出てくる花房が貧弱、株疲れになるため収穫中休みを行い、その間小花房、小腋芽など摘除し再び体力を貯えるタイプと収穫する花房数、腋芽数の制限を行い株疲れを阻止しながら長期連続して収穫するタイプがある。ともかく、次から次へと花は咲き、実も成るが立派な腋芽でないと花も実も貧弱な物となる。

「そのための管理作業」

立派な腋芽を作ることが最も大切。そのためには追肥、灌水をこまめにしまければならない。追肥に際しては栽培マニュアルの希釈率、濃度を守って肥料焼けなどの障害を起こさないよう注意する。また夏場なので土壌水分が蒸発しやすく、葉からの蒸散も激しい。1回10ミリ(10アル/10トン相当)ほどの灌水を5〜10日おきに励行する。

(株)ジャパンプレーズ 社長 石川 正久 評価

総合評価

品 種	LOOKS	形	硬さ	色	光沢	平均サイズ	糖度	香り	旨さ	合計
エッチェス138(夏実)	4	4	5	4	4	3	3	5	4	36
ペチカ	3	4	4	3	3	5	4	3	4	33
夏 娘	3	4	4	3	3	5	4	3	4	33
サマープリンセス	5	5	2	5	5	4	3	4	3	36
雷 峰	3	4	5	3	3	4	3	4	3	30
エラン・カラン	4	4	3	4	3	3	3	3	3	30

